

「新しい医療・介護のテクノロジー」シンポジウム 2018 後援報告

2018 年 10 月 22 日（月）表記シンポジウムが桐生市民文化会館にて開催されました。NPO WBN では上記シンポジウムへの開催後援を通して支援しました。以下はその開催支援報告です。

シンポジウム：第 3 回「新しい医療・介護のテクノロジー」シンポジウム

開催日時：2018 年 10 月 22 日（月）、p.m. 1:30~4:30

開催場所：桐生市民文化会館 1 階 小ホール（〒376-0024 桐生市織姫町 2-5）

主催：認定 NPO 法人 バイオフォーラム

共催：群馬大学、前橋工科大学

後援：桐生市、

NPO 法人 北関東産官学研究会

NPO 法人 ワイヤレスブレインネットワーク

シンポジウムは主催の認定 NPO 法人バイオフォーラム理事長・白尾智明教授（群馬大学大学院医学系研究科）よりの開催挨拶に続き、前橋工科大学・星学長、群馬大学・峯岸副学長の挨拶がなされて開始され、群馬大学研究・産学連携推進機構 伊藤正実教授の座長のもと講演が始まった：

最初の講演は「高齢者の自立生活を引き出す未来の技術とその活用」と題して山口智晴氏（群馬福祉医療大学リハビリテーション学部作業療法専攻 教授）によりなされた。

二つ目の講演は「喘息治療用の吸入器を正しく使えるようにする WEB サービス」と題して茂木和弘氏（群馬大学理工学府知能機械創製部門 助教）によりなされた。講演内容は氏が群馬大学・医学部との連携研究“平成 30 年度医理工生命医科学融合医療イノベーション”プロジェクトで開発中の喘息(Asthma)、や CPSD (Chronic Obstructive Pulmonary Disease：慢性閉塞性肺疾患)患者・治療関連従事者への利便性と負担軽減の提供を目指した WEB サービスについてであった。山間部の多い群馬県においては情報通信技術 (ICT：Information and Communications Technology)を用いた本講演のような在宅治療をも射程に入れた医療支援技術開発の更なる進展を期待したい。

その後、20 分間のコーヒブレイクに続いて、「高齢者住宅における ICT の活用」と題して、増田文彦氏（株式会社ヤマダホームズ 代表取締役社長）より同社の住宅事業への取り組みについて、特に高齢者を対象とした“スマートハウス”で“健康寿命を延ばすために住宅でできること”をテーマに紹介してくれた。

4 つ目の講演は「健康寿命延伸の実現方法（移動と運動について）」と題して古賀詳二氏（コガソフトウェア株式会社 代表取締役社長）によりなされた。日本を始めとして世界的な平均寿命の伸長で各種公的保険・年金制度の破綻が心配され、多くの人々が危惧を抱いているが、それを阻止するための手法について講演者が有している構想を紹介してくれた。

シンポジウム閉会に当たり、関庸一理工学府長から閉会挨拶があり、交流会に移った。交流会には工科大学今村研究室学生を始めシンポジウム参加者が多数出席した。始めに堀越（NPO WBN 理事長）および小濱一弘氏（バイオフォーラム常務理事）から事業実施への労いとお礼挨拶が述べられ、水谷幸代氏（株式会社 Klar 代表取締役）による乾杯発生により、和やかで有意義な情報交換会へとすすんだ。

p.m. 7:30 閉会（WBN 出席者：今村、石川、堀越会員）